

ASIRU

—アシル—

令和5年5月12日発行 第4号



チャレンジテストを日常の授業改善に生かしましょう②

各学校においては、4月7日（金）に配信した「ほっかいどうチャレンジテスト」の結果分析を日々の授業改善の視点に生かしながら、日常の教育活動を推進していることと思います。

本号では、ある学校における「チャレンジテストの効果的な活用例」を紹介します。

「ほっかいどうチャレンジテスト」取組の趣旨

「ほっかいどうチャレンジテスト」の問題の集計・分析等を通して、各学校の学力向上に向けた取組の改善に生かす。

A 小学校における「ほっかいどうチャレンジテスト」の活用方法～算数編～

STEP 1 問題に関わる指導内容を学習指導要領で確認し、身に付けたい資質・能力を具体的にイメージする

5 ゆりさんとたけしさんは、 $\frac{1}{3}$ の大きさについて話し合っています。

ゆりさん 12この $\frac{1}{3}$ の大きさは、4こだったから
15この $\frac{1}{3}$ の大きさは、4こだね。

たけしさん 15この $\frac{1}{3}$ の大きさは、4こではないよ。
数がかわるよ。

ゆりさん どうして、同じ $\frac{1}{3}$ なのに数がかわるのかな。

たけしさん なぜなら、もとの大きさがうと、 $\frac{1}{3}$ の大きさも
ちがうからだよ。

たけしさんがせつめいた「もとの大きさ」は、ゆりさんとたけしさんの話し合いの中のどの数のことですか。アからエまでの中からすべてえらびましょう。

ア 12 イ $\frac{1}{3}$ ウ 4 エ 15

この学校では、令和5年度前年度問題（第1回）
算数 小3 設問五の正答率が低いという実態が明らかになりました。

第2学年の内容A(1)「数の構成と表し方」の(カ)「 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$ などの簡単な分数(知・技)」を踏まえて子どもに身に付けた
い資質・能力を明確にイメージするが必要がありそうだな。



どんな姿が見られたら「理解した」と評価できるだろうか？

$\frac{1}{3}$ は、3つに等分した大きさの
1つ分だね。だけど…



「3等分した1つ分」の大きさは、
もとの大きさによって変わるんだね

$\frac{1}{3}$ の3つ分(×3)をすると、元の大きさに戻るんだね



同じ $\frac{1}{3}$ という表し方でも、何を等分したかによって大きさは異なるんだね

「ほっかいどうチャレンジテスト」
前年度問題（第1回） 算数 小3

STEP 2 研修担当や学年団と連携し、授業改善の方向性を明確にする

答えを求めることだけに終始せず、問題発見、
解決の過程や、子どもの数学的な説明を大切に
してみてはどうでしょうか？



「どうやって考えたのか」「何を基に説明したのか」を
問い返すと、「図と数に関連付けながら説明し合う姿」
につながるかもしれません。

子どもが、「解決したい」「説明したい」と感じ
られるような問題提示を工夫してみましょう。

誤答や、考えの共通点・相違点を意図的に取り上げ
ることで、相手や目的を意識して説明し合う姿につな
がるのではないのでしょうか？

問題発見、解決の過程を大切にするなど、**数学的活動の充実を図り、目標達成に向けて焦点化した話し合いを位置付**
けることで、互いの考えを解釈し合い、説明をよりよくしていく授業改善の方向性を明確にしています。

STEP 3 授業改善の方向性を基に、計画・実践する

2人とも、チョコレートを $\frac{1}{3}$ もらったそうです。

わたしも、「 $\frac{1}{3}$ あげよう」と
いわれたわ！

チョコレートを $\frac{1}{3}$ もらったよ

2年「分数」（東京書籍）の学習では、「元の大きさ」をかくして、
同じ数値の分数を比べる活動を提示しました

えっ？どっちも $\frac{1}{3}$ なら、同じ どちらも $\frac{1}{3}$ といえるかもしれな
大きさになるはずなのに… いよ？図をかくと…

「おや？」「はてな？」をきっかけに子どもが問題を焦点化し、「解決したい」「説明したい」などという見通しをもてるようにしています。

STEP 4 学習内容の系統性を把握し、類似・同様の問題場面に合わせる

本時の目標に正対した練習問題によって達成状況を把握するとともに、3年生、4年生の「分数」の学
習においても、「単位分数のいくつ分」で捉えたり、数のまとまりに着目して大きさを比べたりするなど、
子どもが「見方・考え方」を繰り返し働かせ、確実に身に付けていくようにします。



<義務教育指導班からのお知らせ>

「ほっかいどうチャレンジテスト」等を活用し、学校力向上及び授業改善のための検証改善サイクルを確立することが大切です。上記内容を参考に、各学校で取組を推進しましょう。「ほっかいどうチャレンジテスト」に関するお問い合わせは、右記までお願いします。（担当：指導主事 平林 0154-43-9283）



